

平成31年(第13回)みどりの学術賞選考委員会
委員長コメント

平成31年(第13回)みどりの学術賞受賞者の選考にあたり、選考委員会は、「みどり」に関する学術研究に造詣の深い全国の学識経験者約400名の方々に対し、受賞に相応しい候補者の推薦を依頼しました。

その結果、約60名の候補者の推薦が得られ、多様かつ大変幅広い研究分野から、受賞に相応しい研究者のお名前を挙げていただきました。

選考委員会は、推薦のあった方々の業績を慎重に調査・審議し、造園緑地の分野と育種の分野で活躍されているお二人の方が受賞に相応しいとの結論にいたりしました。

受賞者のお一方は、造園緑地の分野で、屋上緑化や埋立地緑化などの都市の人工地盤緑化における技術を確立するとともに、その研究成果が「緑化事業における植栽基盤整備マニュアル」としてまとめられ全国の造園工事のスタンダードとして応用されるなど、わが国の造園緑地分野全体の発展に大きく貢献された、公益財団法人都市緑化機構代表理事・理事長の輿水肇博士です。

もうお一方は、育種の分野で、イネについて複雑な遺伝子ネットワークの解析に世界に先駆けて取り組み、開花調節の鍵遺伝子など数多くの重要遺伝子を発見し、その研究成果がイネ新品種の開発などに応用されるなど、植物の基礎科学や食料生産の基盤形成に大きく貢献された、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構次世代作物開発研究センター所長の矢野昌裕博士です。

受賞者お二人の研究の分野は大きく異なりますが、いずれも学術的な観点から極めて優れた業績であるとともに、人類と「みどり」との関わりについて深く追求され、「みどり」を活かして暮らしていく未来を示された研究として高く評価いたしました。

選考委員会を代表し、両博士の永年に渡るご研鑽に対し、心から敬意を表するとともに、「みどり」に関する学術が新たな知をもたらし、社会を動かす源泉になることを期待いたします。

平成31年3月13日

みどりの学術賞選考委員会委員長
福田裕穂